

岡山県感染症週報 2024年第27週 (7月1日～7月7日)

◆2024年第27週(7/1～7/7)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第25週	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名(20代 男)
第26週	2類感染症	結核	2名(20代 女 1名、80代 男 1名)
	5類感染症	梅毒	1名(40代 男)
		百日咳	1名(70代 女)
第27週	2類感染症	結核	2名(20代 男 1名、90代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O103:20代 女)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(50代 男)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名(90代 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1名(80代 女)
		梅毒	5名(20代 女 2名、30代 男 1名、40代 男 1名・女 1名)

細菌性食中毒が多くなる季節です。注意しましょう。



©岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD 定点17、基幹定点5

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、県全体で472名(定点あたり5.62人)の報告がありました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が、過去10年間の同時期と比較して多くなっています(定点あたり2.70人)。
- 手足口病の報告が増加傾向にあり(定点あたり14.28人)、過去10年間と比較して最も多くなっています。
- RSウイルス感染症およびヘルパンギーナの報告が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)](#)は、県全体で472名の報告があり、前週から増加しました(定点あたり3.70→5.62人)。詳しくは、「[★新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)情報』](#)」をご覧ください。
2. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で146名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり2.63→2.70人)。地域別では、倉敷市(3.91人)、岡山市(3.50人)、備中地域(3.29人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
3. [手足口病](#)は、県全体で771名の報告があり、前週から増加しました(定点あたり11.43→14.28人)。地域別では、岡山市(22.00人)、備中地域(20.43人)、備前地域(14.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、2024年第27週に5名の報告があり、2024年の累計報告数は174名となりました(2023年の同時期:143名)。2023年は年間報告数が、県内で316名、全国で15,078名(2024年3月9日時点)であり、1999年の感染症法施行以降で最多でした。今年は県内において、前年をさらに上回る勢いで報告があり、注意が必要です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[『梅毒について』](#)」をご覧ください。
5. [RSウイルス感染症](#)は、県全体で138名の報告があり、前週から増加しました(定点あたり2.17→2.56人)。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化するおそれがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。
→ [『RSウイルス感染症とは』\(国立感染症研究所\)](#)
6. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で99名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり1.81→1.83人)。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年7～8月頃が流行のピークとなります。特異的な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。
→ [『ヘルパンギーナとは』\(国立感染症研究所\)](#)

疾病名	定点あたり患者数		推移	疾病名	定点あたり患者数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.07	0.18	↗	ヘルパンギーナ	1.81	1.83	➡
RSウイルス感染症	2.17	2.56	↗	流行性耳下腺炎	0.09	0.04	↘
咽頭結膜熱	0.48	0.54	↗	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	➡
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.63	2.70	➡	流行性角結膜炎	0.17	0.17	➡
感染性胃腸炎	3.15	3.22	➡	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	➡
水痘	0.13	0.07	↘	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	➡
手足口病	11.43	14.28	↗	マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	➡
伝染性紅斑	0.06	0.07	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	➡
突発性発しん	0.28	0.35	↗	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00	➡

【記号の説明】 前週からの推移 ↗：増加 ➡：ほぼ増減なし ↘：減少 増加・減少：前週比10%以上の増減

夏休みに海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
海外の渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

出発前の注意

- ・感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
- ・渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダや生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、こまめに虫よけ剤を使用するなど蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
(狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。)
- ・帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。



©岡山県「ももっち・うらっち」

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

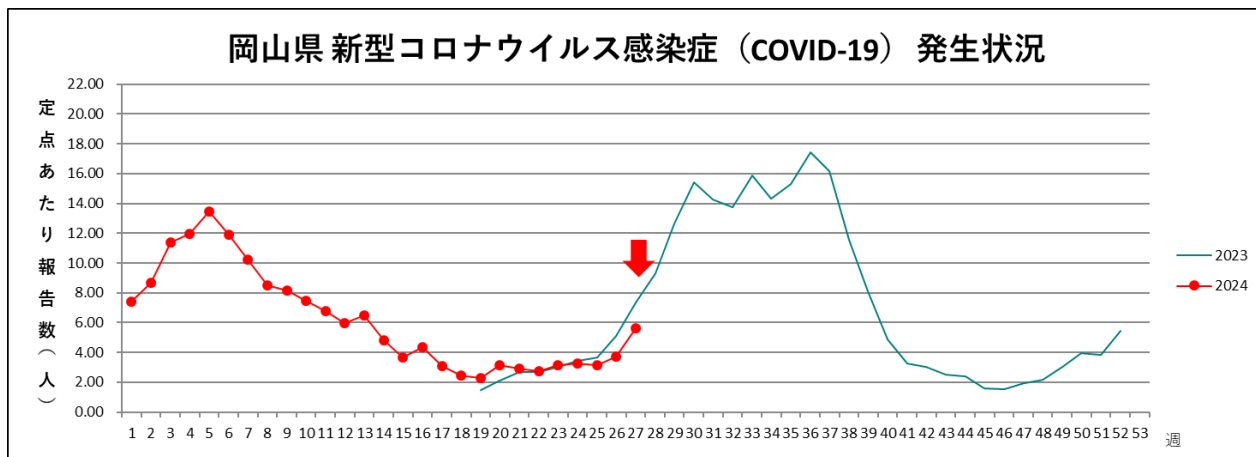
[海外へ渡航される皆様へ（厚生労働省）](#)

[海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第27週（7/1～7/7））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で472名（定点あたり5.62人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [厚生労働省 HP](#)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で472名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり3.70→5.62人）。地域別では、備北地域（12.83人）、倉敷市（7.63人）、備中地域（6.83人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、80代以上を除く年代で前週から増加しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で流行が継続している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・ [罹患後症状のマネジメント・第3.0版（2023年10月20日発行）](#)
- ・ [『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)



基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！

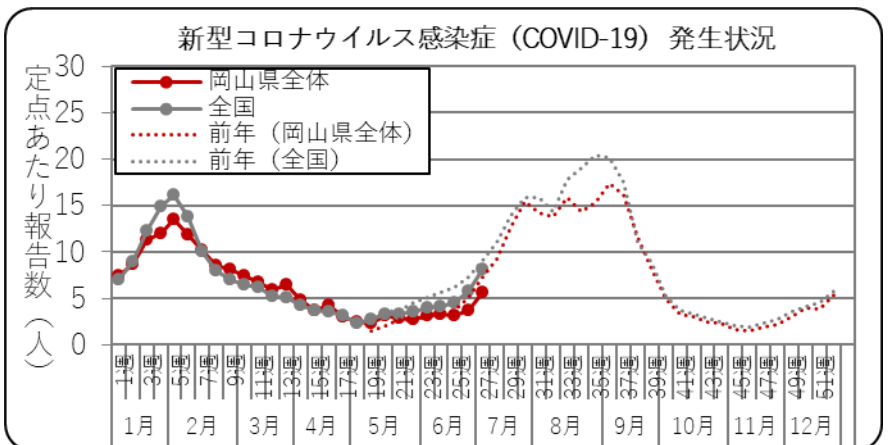
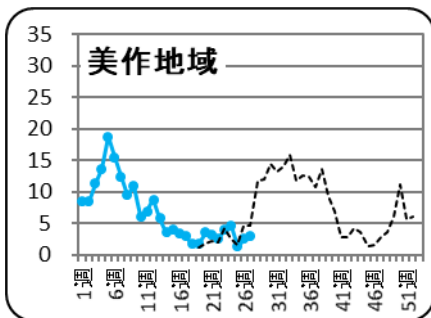
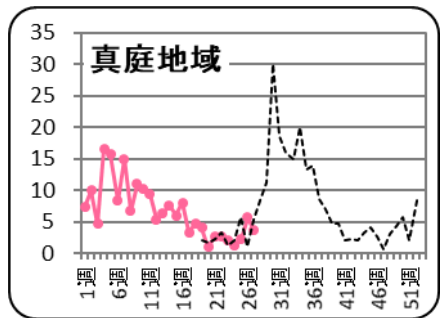
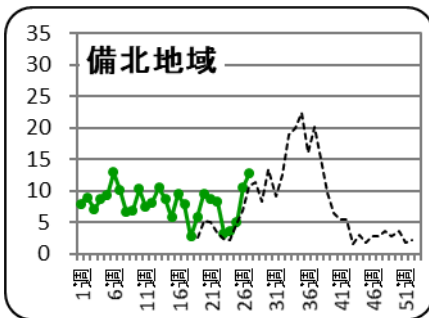
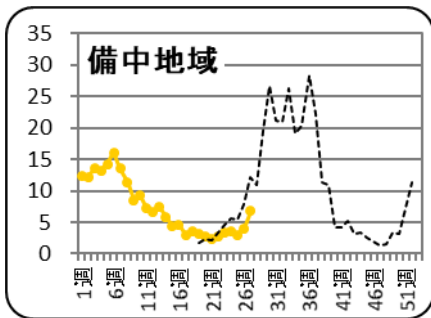
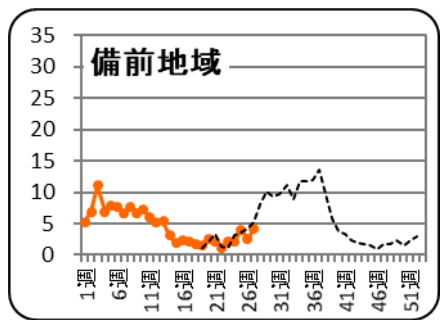
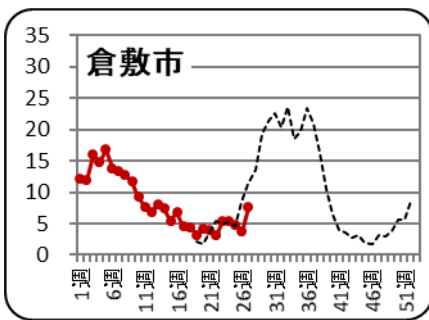
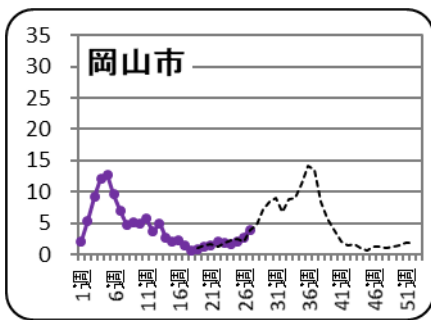
1. 地域別発生状況

地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	患者数	472	↑	備 中	患者数	82	↑
	定点あたり	5.62			定点あたり	6.83	
岡山市	患者数	87	↑	備 北	患者数	77	↑
	定点あたり	3.95			定点あたり	12.83	
倉敷市	患者数	122	↑	真 庭	患者数	11	↑
	定点あたり	7.63			定点あたり	3.67	
備 前	患者数	64	↑	美 作	患者数	29	↑
	定点あたり	4.27			定点あたり	2.90	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↑：増加 →：ほぼ増減なし ↓：減少 ↓：大幅な減少

大幅：前週比 100%以上の増減

増加・減少：前週比 10～100%未満の増減



※前年データは破線で示しています。

○全国の発生状況

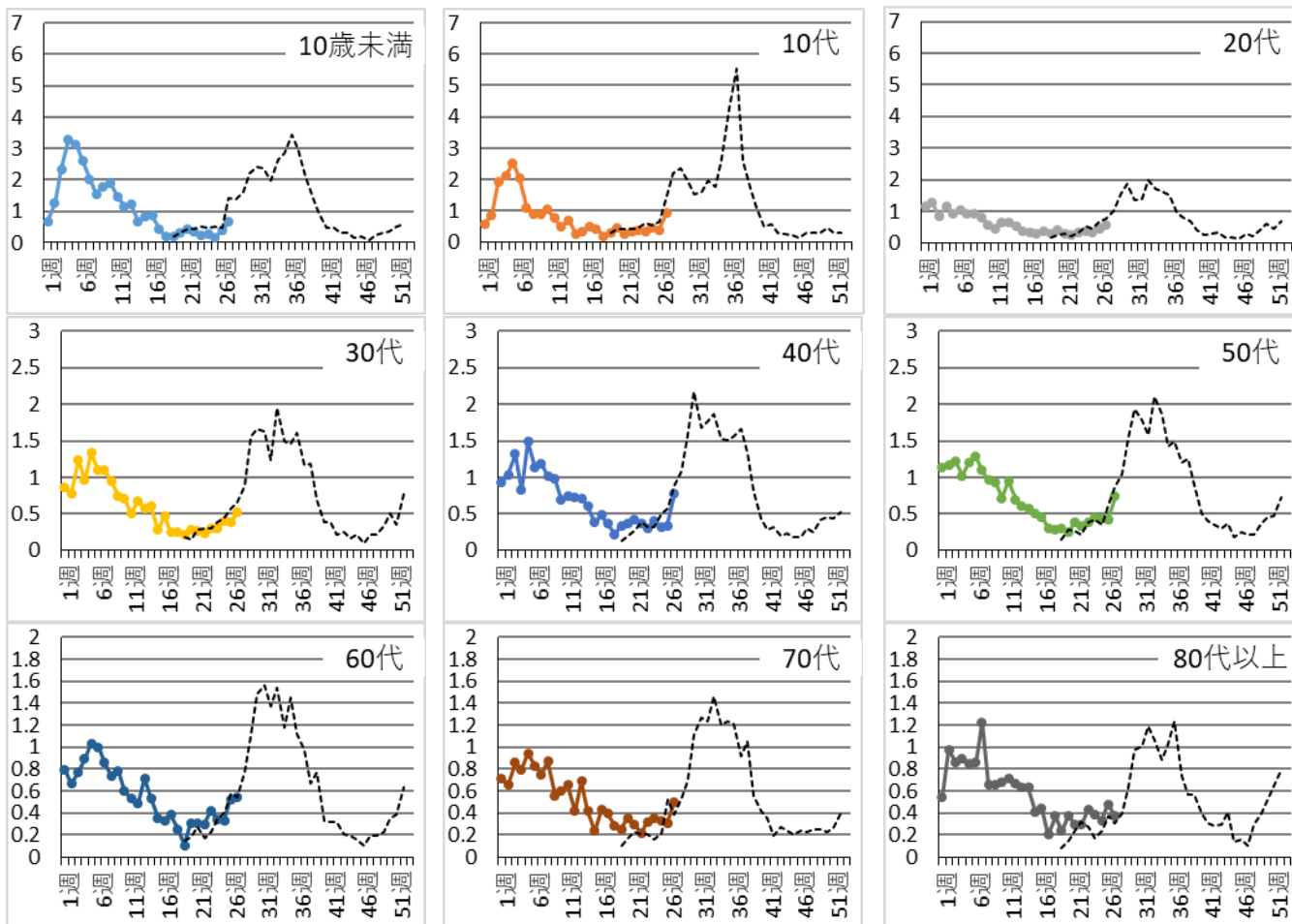
全国集計 2024 年第 27 週速報値（2024 年 7 月 10 日時点）によると、全国の定点あたり報告数は 8.07 人となり、前週から増加しました。

2. 年齢別発生状況

○第27週 (単位：名)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
472	32	8	16	48	30	47	44	66	62	46	42	31

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移



※前年データは破線で示しています。

📢 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、**報告数は小児に偏ります**。一方で、年齢階級別の報告数により、**経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます**。

3. 新型コロナウイルス検出状況 (ゲノム解析)

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立感染症研究所\)](#)

今週の注目感染症①

★A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

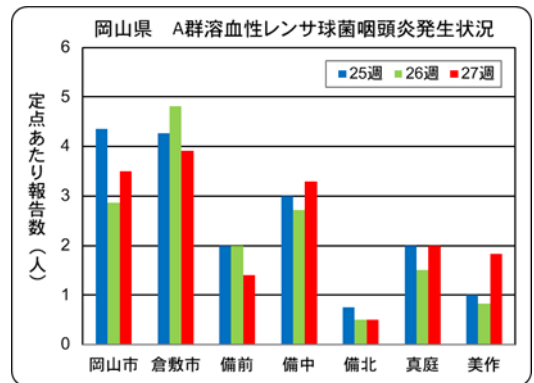
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による呼吸器感染症で、主な感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染です。そのため、家庭や、学校・保育施設などでの感染も多いとされています。

潜伏期は 2～5 日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。咽頭炎、扁桃炎のほか、口腔内に点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。通常、3～5 日以内に解熱し、主症状は 1 週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現する猩紅熱と言われる全身症状を示すことがあります。その他、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

●発生状況

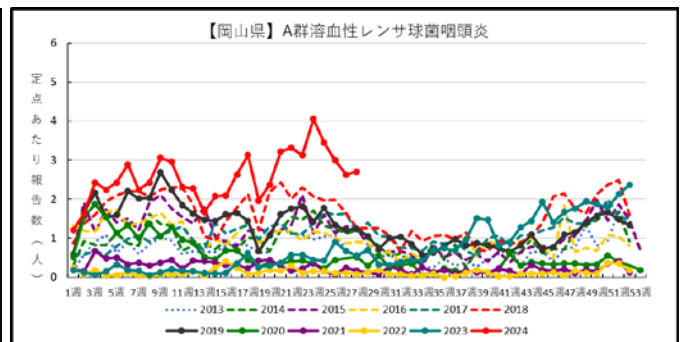
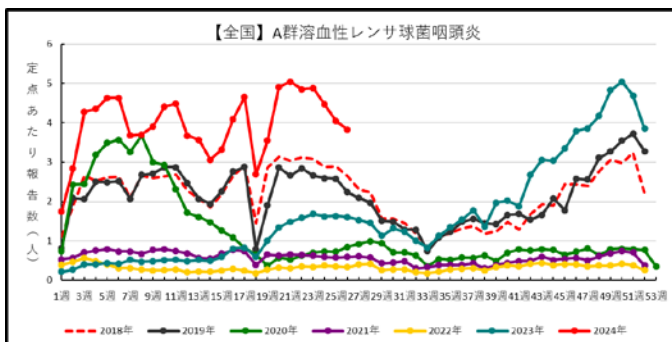
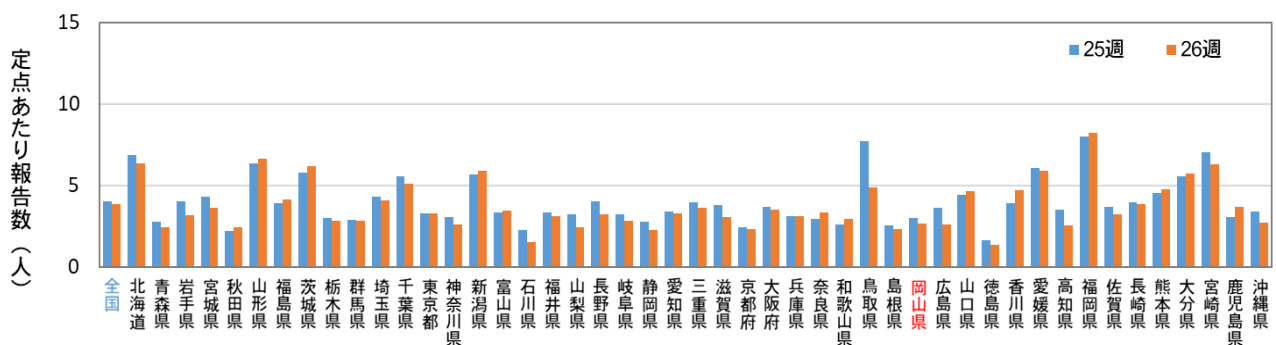
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は全国的に増加傾向にあり、2023 年（昨年）の 10 月以降、例年を上回る件数が報告されています。全国の第 26 週（6/24～6/30）の発生状況は、定点あたり報告数が 3.83 人であり、前週（4.04 人）とほぼ同数でしたが、過去 5 年間の同時期と比較して多くなっています。都道府県別では福岡県（8.21 人）、山形県（6.61 人）、北海道（6.34 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

岡山県においても昨年 10 月以降、定点あたり報告数が例年より多い傾向が続いています。第 27 週（7/1～7/7）は県全体で 146 名の報告があり、前週とほぼ同数でしたが（定点あたり 2.63 → 2.70 人）、過去 10 年の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市（3.91 人）、岡山市（3.50 人）、備中地域（3.29 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。



岡山市（3.50 人）、備中地域（3.29 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

2024年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



●治療・予防方法

治療にはペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合はマクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。発熱、咽頭痛などの症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（厚生労働省）](#)

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

【関連情報】

★劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行する感染症です。主にA群溶血性レンサ球菌によって引き起こされますが、劇症型へと進行する理由はいまだ不明です。年齢別にみると30代以上の年代で多く発症しています。

全国では第26週に33名が報告され、累計は過去最多となった昨年の年間報告数(949名)を上回る1,144名となっています(2024年7月3日時点)。

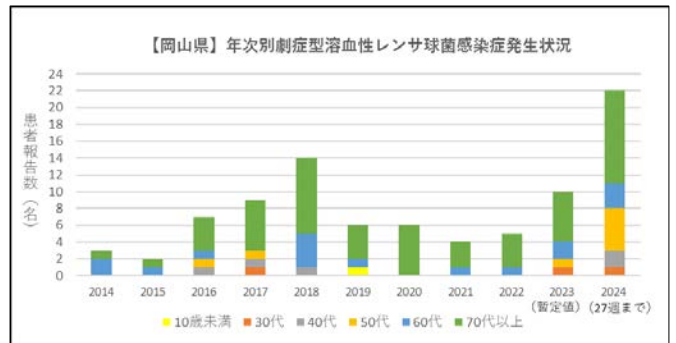
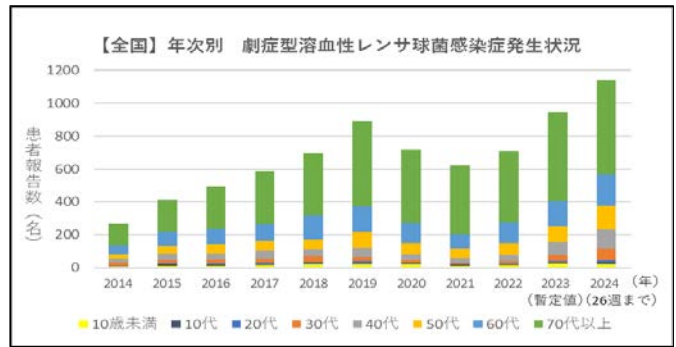
岡山県でも2024年は第27週までに22名の報告があり(2024年7月10日時点)、既に過去10年間で最多となった2018年の報告数(14名)を超えています。

この感染症は急速に症状が進行し、24時間以内に多臓器不全に至ることがあります。手指衛生や咳エチケット、怪我をした際の清潔な処置等に努め、発熱、咽頭痛や創部の発赤、腫脹、痛みなどの症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症\(STSS\) \(厚生労働省\)](#)

[劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは \(国立感染症研究所\)](#)



～ ダニの活動が活発になる時期です ～ ダニが媒介する感染症に注意しましょう!

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)*、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)

⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)

⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

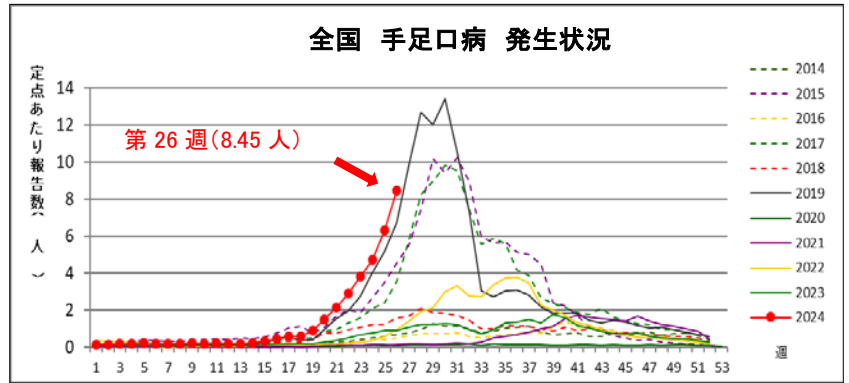
今週の注目感染症②

★手足口病

●感染経路および症状

手足口病は、夏季に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。飛沫感染や接触感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが手指などを介して口に入ること）などによって感染します。

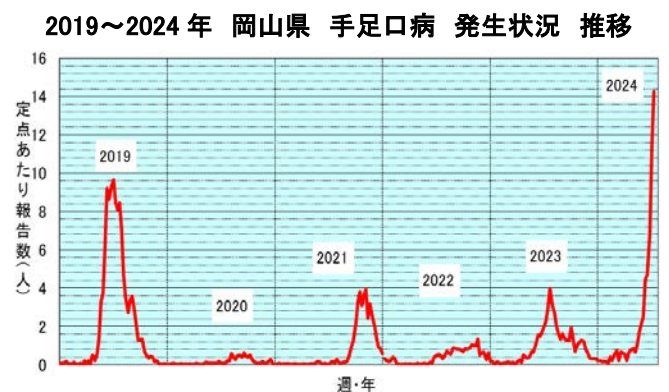
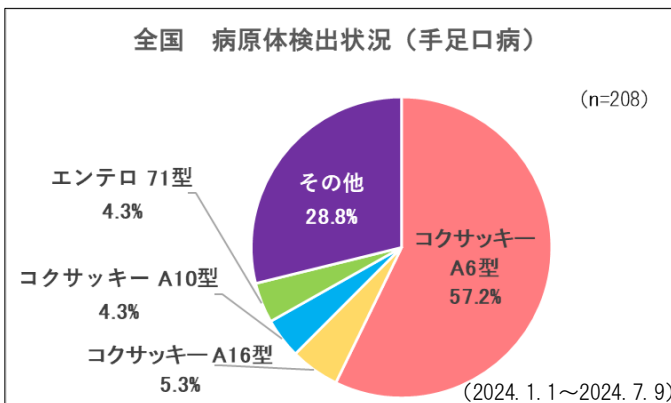
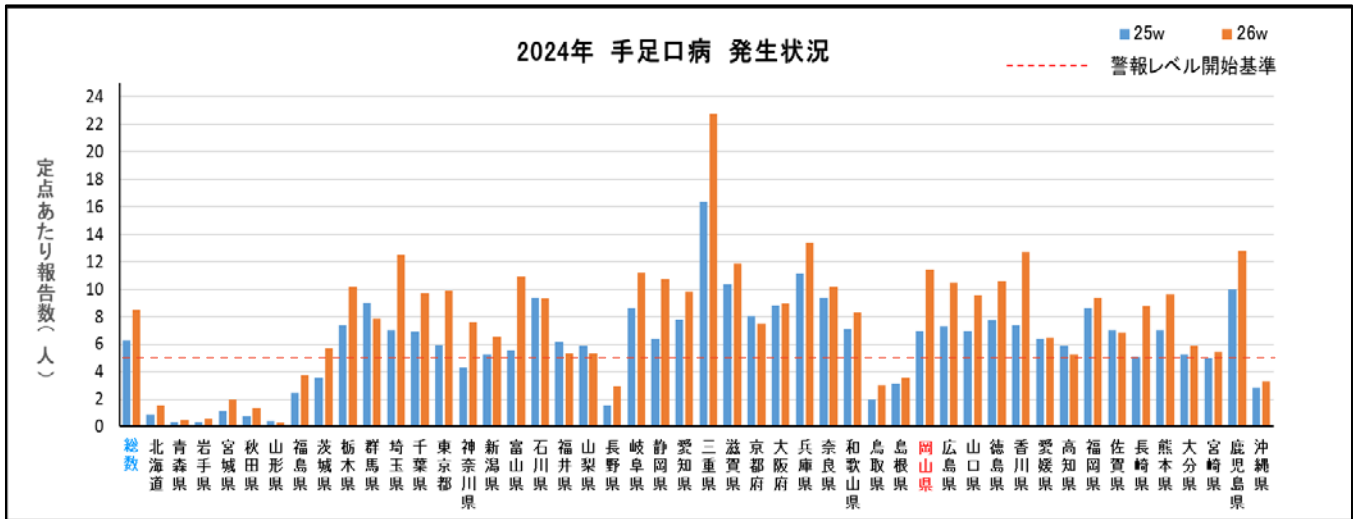
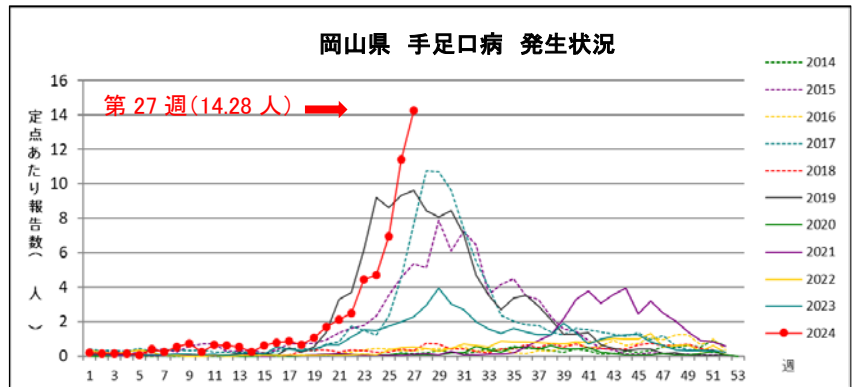
3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現します。発熱は約1/3に見られますが、一般に軽度です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎や急性弛緩性麻痺などを起こすことがあります。なお、2024年は全国的にコクサッキーウイルスA6型の検出が多くなっています。



●発生状況

全国の第26週の定点あたり報告数は、第25週から増加しました(6.31 → 8.45人)。都道府県別では、三重県(22.73人)、兵庫県(13.42人)、鹿児島県(12.80人)の順に多く、36都府県で警報レベルの5.00人を超えています。

岡山県では、第27週に県全体で771名(定点あたり14.28人)の報告があり、岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域および美作地域で発生レベル3となっています(終息基準値は2.00人)。年齢別では、第27週までで0～3歳が74%を占めています。



●治療および予防法

治療はなく、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくい、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、高熱が出る、おう吐する、頭を痛がる、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。有効なワクチンはないので、患者との濃厚な接触を避け、**せっけんや流水による手洗い**を励行し、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。

[手足口病に関するQ&A（厚生労働省）](#)

[手足口病の流行に関して（日本産婦人科医会）](#)

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます（岡山県疾病感染症対策課）](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。

以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

岡山県の2019年4月～2024年2月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、34.5%と未だに低い状況です！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

保健所別報告患者数 2024年 27週(定点把握)

(2024/07/01～2024/07/07)

2024年7月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	15	0.18	2	0.09	7	0.44	-	-	2	0.17	1	0.17	2	0.67	1	0.10
RSウイルス感染症	138	2.56	16	1.14	80	7.27	6	0.60	21	3.00	5	1.25	1	0.50	9	1.50
咽頭結膜熱	29	0.54	6	0.43	7	0.64	2	0.20	1	0.14	-	-	8	4.00	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	146	2.70	49	3.50	43	3.91	14	1.40	23	3.29	2	0.50	4	2.00	11	1.83
感染性胃腸炎	174	3.22	76	5.43	26	2.36	43	4.30	8	1.14	5	1.25	-	-	16	2.67
水痘	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	771	14.28	308	22.00	90	8.18	145	14.50	143	20.43	12	3.00	3	1.50	70	11.67
伝染性紅斑	4	0.07	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	8	0.57	6	0.55	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	99	1.83	47	3.36	13	1.18	2	0.20	18	2.57	2	0.50	3	1.50	14	2.33
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2024年 27週(発生レベル設定疾患)

(2024/07/01~2024/07/07)

2024年7月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	15	0.18	2	0.09	7	0.44	-	-	2	0.17	1	0.17	2	0.67	1	0.10
咽頭結膜熱	29	0.54	6	0.43	7	0.64	2	0.20	1	0.14	-	-	8	4.00	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	146	2.70	49	3.50	43	3.91	14	1.40	23	3.29	2	0.50	4	2.00	11	1.83
感染性胃腸炎	174	3.22	76	5.43	26	2.36	43	4.30	8	1.14	5	1.25	-	-	16	2.67
水痘	4	0.07	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	771	14.28	308	22.00	90	8.18	145	14.50	143	20.43	12	3.00	3	1.50	70	11.67
伝染性紅斑	4	0.07	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	99	1.83	47	3.36	13	1.18	2	0.20	18	2.57	2	0.50	3	1.50	14	2.33
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2024年 第27週 2024/07/01～2024/07/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	15	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	1	2	4	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	138	16	24	61	17	9	2	8	-	1	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	29	-	3	8	3	4	3	4	-	2	-	2	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	146	-	1	8	12	12	16	10	25	18	15	7	18	-	4
感染性胃腸炎	174	2	15	22	20	14	19	15	8	17	7	6	16	2	11
水痘	4	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	
手足口病	771	10	50	233	153	113	90	63	22	12	9	5	8	-	3
伝染性紅斑	4	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	19	1	2	13	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	99	-	15	21	22	17	7	11	3	3	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

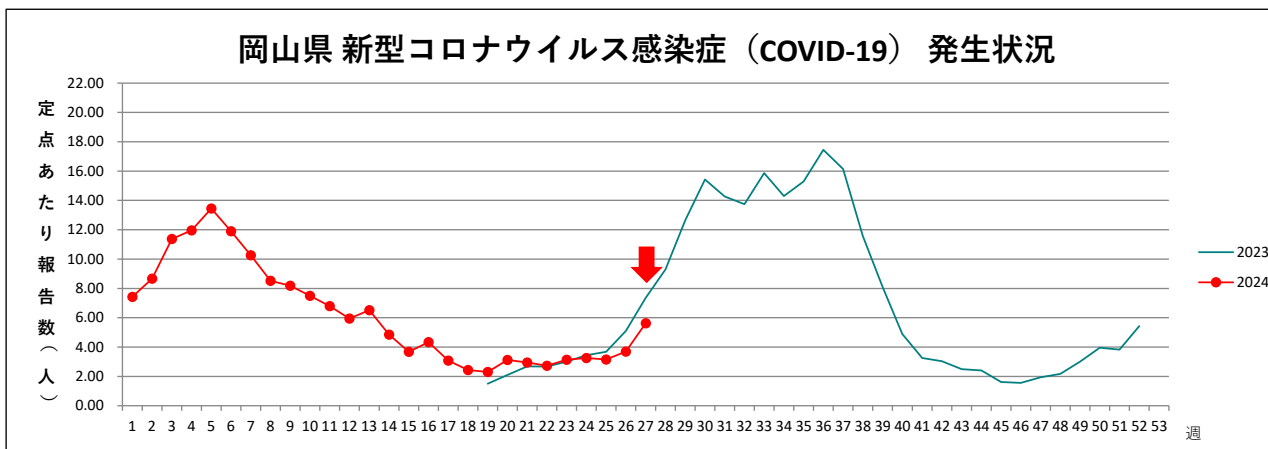
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	472	5.62	87	3.95	122	7.63	64	4.27	82	6.83	77	12.83	11	3.67	29	2.90

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	472	4	9	5	9	5	3	1	4	5	7	4	48	30	47	44	66	62	46	42	31

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2024 年 27 週

分類	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	121	211	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	17	104
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	-
	エキノкокクス症	-	-	-	エムポックス	-	-	1	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	4
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	7	13	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	14	48
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	ア메ーバ赤痢	-	4	11	ウイルス性肝炎	-	3	4	カルバベネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	13	28
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	1	急性脳炎	-	6	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	22	10	後天性免疫不全症候群	-	7	5
	ジアルジア症	-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	6	10	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	16	35	水痘(入院例に限る。)	-	4	5	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	5	174	316	播種性クリプトコックス症	-	3	2	破傷風	-	-	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	百日咳	-	7	22
	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2

